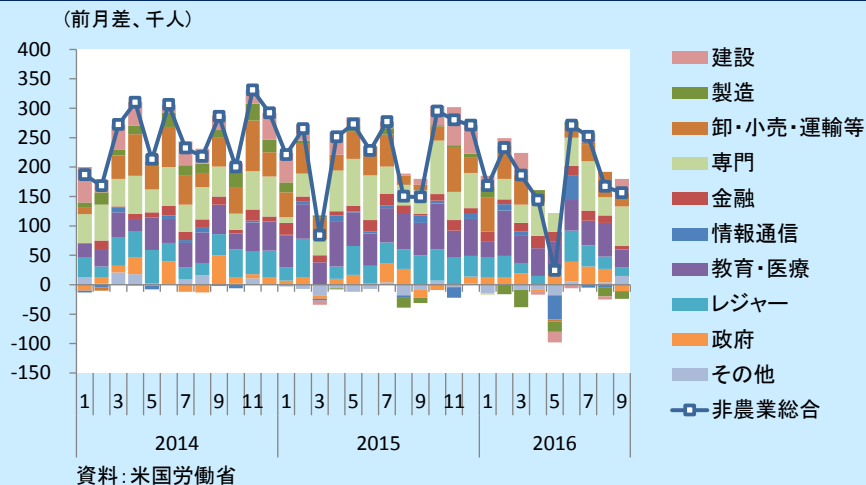


米国：雇用統計（2016年9月）

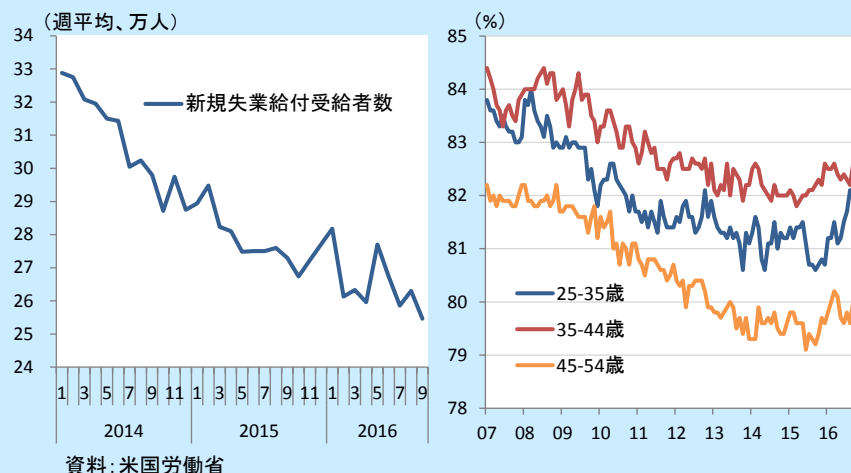
— 良好な雇用環境が継続 —

MRI Daily Economic Points
October 12, 2016

図表1 非農業部門雇用者数



図表2 新規失業給付受給者数 図表3 勤労世代の労働参加率



評価ポイント

今回の結果

- 16年9月の非農業部門雇用者数は、前月差+15.6万人増と、前月(同+16.7万人)から増加幅がやや縮小した。
- 内訳をみると、製造業(同▲1.3万人)が2ヶ月連続で減少したほか、政府(同▲1.1万人)も3ヶ月ぶりに減少に転じた。また、教育・医療(同+2.9万人)、レジャー(同+1.5万人)も増加幅が縮小。一方、前月に増加幅が縮小した専門・ビジネスサービス(同+6.7万人)は大幅に拡大。小売業(同+2.2万人)も前月と同程度の増加幅を維持した。減少が続いていたシェール関連産業を含む鉱業・林業(変化なし)は、2年ぶりに雇用者数を維持した。
- 9月の失業率は5.0%と前月(4.9%)から小幅上昇。もともと、労働参加率は62.9%と前月(62.8%)から上昇しており、非労働力化していた者が職探しを始め、労働市場へ再び参入したことが主因。
- 時間当たり平均賃金は前年比+2.6%と前月(同+2.4%)から上昇。15年後半以降、同+2.5%前後での推移が続いている。

基調判断と今後の流れ

- 9月は雇用者数の増加幅が前月から縮小したものの、民間部門では、雇用者数が前月差+16.7万人と前月(同+14.4万人)から拡大しており、良好な雇用環境は続いている。企業の求人数の増加傾向や新規失業給付受給者数の減少(図表2)が続く中、15年後半以降は、若年層を中心に減少が続いてきた勤労世代の労働参加率にも、持ち直しの動きが見られる(図表3)。
- 先行きも良好な雇用環境は続くと思込む。ただし、①失業率が長期均衡水準(4.8%)付近まで低下していることや、②製造業を中心に企業の採用姿勢がやや慎重化していることなどにより、15年に比べて雇用者数の増加ペースは鈍ると予想する。
- 11月の米大統領選挙に伴う不確実性の上昇や、企業利益の減少などにより、雇用の改善ペースが一段と鈍化する可能性には注意が必要である。